

事業所名： グループホーム ほほえみの家 B棟

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372100743		
法人名	社団医療法人 池田記念会		
事業所名	グループホーム ほほえみの家 B棟		
所在地	岩手県滝沢市高屋敷平11-1		
自己評価作成日	令和7年9月1日	評価結果市町村受理日	令和8年1月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は同一法人が経営する老人保健施設と神経科・内科クリニックの隣接地にあり、医師が定期的に往診するなど、福祉と医療が連携を密に図りながら、利用者様が安心して穏やかな生活が送れるよう支援している。現在も感染症対策を継続しながら、少しずつ以前の日常を取り戻すため様々な取組みを行っている。例えば近隣の保育園との交流を図っている他、自治会と草取りを通じて交流をするなど、今まで築いてきた関係性が途切れないように取組みを進めている。また、利用者様がホームに閉じこもることがないようにホーム周辺や敷地外を散歩したり、花見などのドライブに出掛ける等可能な限り外出する機会を設けている。今年の6月より飲食を伴う外出も許可し、利用者様が家族と過ごす時間をもてるように配慮している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桜、白樺、栗等の樹木に囲まれ、前庭には季節の花が咲くバラ園もある自然環境に恵まれた事業所である。敷地内に同一法人が運営している介護老人保健施設や神経内科クリニック、ケアプラン作成室があり、医療、介護連携が図られている。運営に当たっては、グループホームの理念「支えあい 励ましあい 助け合い」を職員間で共有し、利用者の生活の様子をタブレットで共有し、利用者一人ひとりにきめ細やかな介護サービスを提供している。運営推進会議委員の助言や提言を受け、事故防止対策、保育園児との交流、徘徊者の連絡対応等を運営に反映させ、また、職員の申し出や職員で作る各委員会の提案を行事や日々の業務に活かしている。さらに、市主催の認知症カフェやオレンジフェスタへの職員の参加等認知症の周知、啓発に取り組むとともに、自治会に加入し事業所の広報誌を回覧板に入れていただき、地域住民に事業所を理解いただけるよう努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年9月26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	常に理念を意識して動けるようグループホーム内に掲示しているが、職員間で理解に差がみられる。勉強会を開催するなど理念の理解をさらに深めることができるように話し合いを続けている。	職員で話し合っ決めて「支えあい 励ましあい 助け合い」の理念を実践に繋げるために事業所内に掲示するとともに、職員会議等を通じて職員間で共有し、一人ひとりの状況に沿ったきめ細やかな介護サービスを提供するよう利用者支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	感染症対策の為、日常的な外出や地域交流は制限されている。しかし、感染状況をみながら少しずつではあるが、距離を保ちながら保育園や地域の方々と交流を行っている。	自治会に加入しており、地域の回覧板に家族や利用者の承諾を得て作成した「地域版事業所広報」も入れてもらっている。地域で行っているクリーン作戦には、事業所独自でクリーン月間と位置づけ事業所周辺のゴミ拾いや草取りを職員や利用者、運営協議会の委員、地域の福祉担当の住民が一緒に行っている。近隣の2カ所の保育園の園児が訪れ、踊りを披露しプレゼント交換をする等、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域で生活している方が認知症の症状で対応が難しいことがあれば、いつでも協力できることを運営推進会議内で伝えている。又、滝沢市からの委託を受け『認知症まちかど相談室』の窓口を設置し、いつでも相談に応じられる環境を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	委員からの意見を運営に反映できるよう、取り組める内容から順次取り組んでいる。今年度は以前の会議で出た意見を基に、近隣の交番から警察官の方にも会議に参加していただき、地域の防犯についてのお話をいただいた。検討事項や2カ月間の取り組み状況を報告し、会議の中で出された意見を職員会議で検討し次回の会議で報告している。	利用者の家族や自治会の会長、自治会福祉部長、保育園園長、地域包括支援センター職員等が委員となり2カ月に1回開催している。活動報告や身体拘束適正化委員会の報告等を行い活発な意見交換をしている。毎回、おやつ作りの見学や地域の交番の警察官を講師に研修を行う等、テーマを決めて事業所の理解をいただけるよう取り組んでいる。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみの家 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市からの要請で介護相談会への参加や相談窓口の設置を行っている他、日常生活自立支援事業の活用している方がいるので、日頃から社協に情報提供するなど連携を図っている。運営に必要な情報は市からのメールで周知されている。求めに応じて報告は密に行っている。	地域包括支援センター職員を運営推進会議の委員にお願いしており、相談しやすい体制となっている。また、市の担当者とは、電話やメールで情報提供いただくとともに、オレンジカフェや年1回開催しているオレンジフェスタに職員が参加し介護相談を行うなど、行政と協力関係を築くよう努めている。市の介護相談員が2、3カ月に1回来所し、利用者の相談を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	委員会が中心となり身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の状況に応じてセンサーマットを使用し、自由を束縛しないように配慮しつつ安全確保に努めている。日中は玄関に施錠していない。また、スピーチロックに関しては三か月に一度スピーチロック月間を設けている。職員各自がチェック表を使い、ケアの振り返りを行うようにしている。	運営推進会議に併せて、身体拘束適正化委員会を年6回開催し、課題を協議し職員に周知するとともに、勉強会を開催し趣旨の徹底を図っている。現在、身体拘束の事例はないが、転倒防止のためA棟3人、B棟2人がセンサーマットを利用している。スピーチロックについては、「スピーチロック月間」を設定し、個人チェック表を用い事例を通して研修をするとともに、「言い換え」を掲示し全職員で気を付けるよう取り組んでいる。防犯のため夜間は、玄関に施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	委員会が中心となり、グループホーム内研修会を実施しており、認識を高め虐待防止の徹底を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	グループホームに関わりある部分についてはある程度理解しているが、それぞれの制度の持つ役割については十分に理解しているとは言えない。そのため外部の勉強会や研修に積極的に参加したり、グループホーム内で研修会を開催して理解を深めていきたい。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみの家 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の申込をいただく時は、利用者やご家族が十分に理解し納得していただけるよう時間をかけて分かりやすい説明を心掛けている。また、生活の中で起こりうるリスク、重度化について細かく説明し確認書にサインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族には二か月に一度広報誌を送付したり、電話報告を行い、利用者の日頃の様子をお知らせしたり、家族からの要望をお聞きするようになっている。また、市から派遣される介護相談員との会話を基に、利用者の生の声を聞く機会としている。把握した意見・要望は運営推進会議で報告したり、事業所運営に反映するようになっている。	利用者からは、日常の支援の中で意見や要望の把握に努めている。また、市から介護相談員が来所しており、意見や要望等を把握した場合には共有するようになっている。家族からは面会等来所時や電話した時に確認するよう努めている。「歩かせてほしい」「歯磨き粉等の使用量が多い」等の要望があり、職員会議等で検討し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回職員会議を開催している他、必要に応じて会議を開催し職員の意見を聞く機会を設けている。参加できない職員はリモートで参加することもある。今年度は個別面談も実施している。会議で検討課題がある場合は、管理者が上司と相談しながら職員の要望、意見の実現に努めている。	毎月1回開催している職員会議や日々の業務の中で意見等の把握に努めている。業務内容については、生産性向上委員会で検討して対応している。必要に応じて上司や法人の事務長に相談し実現できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、管理者との協議の中で各職員の個々の努力や実績等を把握し、人事考課も加味し、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ前は外部の研修に多くの職員が参加できるようにしていたが、現在は参加することがあまり出来ていない。研修報告は職員会議内で行っている。また、職員の自己資質向上のため年4回の勉強会を開催し、働きながら学ぶことができる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	感染症対策の為、今年度は開催回数は少ないが通常では1ヶ月に一回程度定例会があり、職員を交代で参加させている。定例会では他のグループホームと情報交換したり、事例検討や職員の交換研修などを行い質の向上に努めている。また、オレンジカフェやオレンジフェスタなどにも参加をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前調査の中で生活状況を把握するよう努めている。利用希望者にはグループホームで過ごしてもらい雰囲気を見てもらっていたが、現在はグループホーム内の立ち入りを制限しているため行っていない。また入居時には家族に『私の基本情報シート』を記入してもらい、情報の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居を希望するまでに至った経緯や今困っている事を聞き出し、在宅での生活継続も含めてグループホームの利用について説明している。定期的に電話報告することで、家族との信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居に不安のある方は、短時間でもグループホームで過ごすように勧めていたが、感染症対策の為、でグループホーム内への立ち入りが制限されている。ipadで撮影した動画を見てもらい、不安の軽減に努めている。相談時に緊急を要する場合、他のグループホームの空き状況を確認したり、他の施設を紹介するなどの対応をしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみの家 B棟

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自分が必要とされていると思って頂けるようにその方の能力に応じた役割をお願いしたり、活動に参加できるように配慮している。利用者は人生の先輩であることを職員間で共有しながら、尊敬と感謝の気持ちで接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	2カ月に1回電話で近況報告し、利用者の健康状態や生活の様子を伝え、家族と情報共有するよう努めている。運営推進会議の委員となった家族がグループホームの事情を知ること、環境整備などに積極的に参加してくれるようになるなど変化がみられている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	契約時に、利用者・家族からの聞き取りを基に「私の支援マップシート」を作成し、これまでの関係者、馴染みの場所等の把握に努めている。馴染みの場所(昔住んでいた地域)や自宅に行ったり、訪ねてくる知人との面会、外出には柔軟に対応している。利用者の中には、年賀状や手紙のやり取りで知人との交流を深めている方もいる。感染症対策中でも関係性が途切れないように支援している。	知人の来所が少ないため、事業所の広報誌を自治会の回覧版に入れていただき、家族や知人が来所しやすいよう取り組んでいる。6月から外出可能となり自宅や温泉、認知症カフェ等に家族と一緒に出かけ利用する利用者もいる。滝沢市の介護相談員が2、3カ月に1回、理容師が2カ月に1回訪れ馴染みの関係となっている。また、B棟の1名の利用者は、クロスステッチやぬいぐるみの作成に取り組んでおり、時々こちらから訪れる手芸屋さんや馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が、自然と生活の中で助け合ったり支え合っているのを見守っている。何か困っているような時は職員が間に入り支援している。また、利用者が個々に他の方を気にかけて支え合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	これまでの生活環境が損なわれないように、支援の内容、注意が必要な点について情報提供する体制を整えている。グループホーム側から積極的に連絡をとることはないが、過去には家族から連絡があり相談を受けたこともある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりのなかで利用者の言葉や表情から意向の把握に努めている。家族から得た情報も記録に残してケアに活かしている。また、認知症状による行動や言動についても利用者の思いに寄り添うケアを実践している。	入居時に家族に記入していただいた「私の支援マップシート」を参考に利用者の思いや意向を把握し、「自分でできる事は自分でやる」ことを支援している。モップがけ、テーブル拭き、趣味の編み物等を行っている。ほとんどの利用者が思いや意向を伝えることができる。また、言葉や表情、行動から思いを汲み取り、個人チャートに記入し職員で共有し支援に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の生活歴や嗜好など把握するために専用のシートを用意しご家族に記入を依頼している。また、不足している部分があれば本人や家族から聞いたことを記録に残して、職員同士で把握できるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員が利用者対応で気付いた事を詳しく記録に残すようにしている。状態変化がある時は必ず申し送りや伝達し、どの職員でも対応できるように共有するよう努めている。			

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみの家 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当者が作成した計画を基に、カンファレンスで支援の方向性について検討している。内容に応じて法人の看護師や作業療法士に助言をもらい、家族にも意見を聞き要望がある時は計画に反映させている。症状の変化や状態に応じて見直しも行っている。	6か月に1回介護計画の見直しを行っている。介護支援専門員有資格者が5名おり、分担して介護計画を作成している。医師や看護師、作業療法士等の助言や家族、利用者の意向を取り入れ原案を作成し、原案を基にカンファレンスを開催し介護計画を作成している。また、3か月に1回作業療法士が評価し、リハビリ計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子や気付いた事を詳しく記録に記入し、情報を共有するため申し送りで伝達している。介護計画はケアチェック表、記録を参考にしたり、職員から話を聞きながら見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	感染症対策ため外出には慎重になっているが、手芸店に買い物へ行ったり個人買い物の付き添いをしている。通院の付き添いなど家族と利用者その時々々の要望に応じ柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議に自治会の代表や包括の職員に参加して頂き、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	隣接地にクリニックがあり、定期的に往診に来所する為、かかりつけ医に選んでいる家族が多い。専門科目以外の病気については家族の希望を踏まえ他科受診で対応している。他科受診は基本的に家族に受診対応をお願いしているが、家族の付き添いが難しい場合は職員が通院の支援をしている。	入居時にかかりつけ医について、家族や利用者から確認している。敷地内にあるクリニックにかかりつけ医を変更している利用者が多く、職員が同行受診している。また、皮膚科や整形外科等の受診は家族の同行受診を基本としているが、遠距離等家族の要請により職員が同行することもある。希望により月2回来所する歯科医師に受診している。医療機関の看護師が健康観察のため2週間に1回来所している。インフルエンザ等の予防接種は協力医が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師に利用者の健康状態など気になることを報告し、対応方法など助言をもらっている。医師への報告が必要な場合は、看護師が伝達する役割を担うことで、正確な情報が伝わる仕組みになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合には情報提供書などを利用し、本人の情報を細かく伝えるようにしている。病状説明の際には家族だけでなくグループホーム職員も極力参加し、医療機関との連携をはかっている。また、早期退院が可能な場合は部屋を確保しておくなど、退院後スムーズにグループホームに戻ることができるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化等の対応指針を定めており、契約時に説明理解を得ているが、基本的には家族の意向を尊重しながら対応している。グループホームでの看取りを希望する時は隣接する医療機関と連携して対応し、利用者の状態に変化が生じた際には家族にその都度意向確認をしながら、他の施設を望む場合は紹介することになっている。	「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」を作成し、入居時に利用者、家族に説明している。ここ2、3年は看取りを行っていない。重度化した場合は、再度、家族に説明するとともに、家族の意向を伺い介護施設や医療機関等を紹介している。	重度化した場合の対応について、法人の関係施設の職員等を講師とする研修会を開催する等により、職員のスキルアップを目指していくことを期待したい。

事業所名 : グループホーム ほほえみの家 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急手当の勉強会を実施し習得するようにしている。様々な場面に対応できるようマニュアルを整備し周知徹底をはかると共に、実際の場面を想定しながら職員間で確認するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回日中と夜間想定消防訓練を実施。台風などの災害を想定しマニュアルに沿って各職員に担当を決め、物資の購入や情報収集、設備の点検を行っている。非常食も備蓄した。職員間の連絡方法としてグループLINEを活用し、今年度は災害を想定したBCP訓練も実施した。	年2回、消防署の協力を得て火災を想定した避難訓練を、日中と夜間を想定し実施している。近隣の協力員への火災通報も行っている。ハザードマップで火山災害の指定区域となっており、避難場所の確認は行っている。食料3日分、医薬品、オムツ等を備蓄している。職員への連絡は、ラインで連絡網をつくり対応している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の尊厳を傷つけないようにする為に、理念のキーワードの具体化を職員間で話し合い、日頃のケアに活かせるようにしている。しかし声のトーン、強い口調、不適切な声掛け等、配慮に欠ける場面が見受けられる時もあり、その際には職員間で話し合い、対応の仕方について再確認し、質の高いケアを目指すよう職員一丸となって取り組んでいる。	入浴や排泄介助の際には、特に利用者の尊厳に配慮した支援ができるよう取り組んでいる。同性介助を希望する利用者が1名おり、対応している。排泄を失敗した場合には、利用者の尊厳を傷つけないよう声掛けや誘導に配慮し対応している。利用者一人ひとりの意向を尊重しプライバシーを確保するよう、職員会議等で話し合い取り組んでいる。広報誌への写真掲載や名前の記載は、事前に同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が生活の中で自己決定が出来るように声かけの仕方を工夫している。また、自己決定出来ない方は飲み物リストを活用し、選びやすいような働きかけを行っている。誕生日にはケーキなど希望の物を召し上がっていただいている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみの家 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	散歩などその日の利用者一人ひとりの希望やペースに合わせて支援しているが、対応が難しい場合は本人に説明をし、待ってもらうか他の活動に気が向くよう誘っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴時には爪切りや髭そりを行い身だしなみを整えている他、生活の中で衣服の汚れを見つけた時にはすぐに交換するようにしている。自力で下着交換をできる方には自室に洗濯かごを準備し対応している。散髪や毛染めの希望もあり、訪問理容を活用しニーズに答えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	感染対策のため買い物は休止中だが、食事への関心や意欲を高めながら楽しめるように、可能な限り調理、盛り付け、後かたづけ等を職員と一緒にやっている。一緒に収穫した野菜等を使用し、季節を感じてもらえる機会を持っている。また、誕生会では本人の好みをメニューに取り入れるようにしている。	職員作成の献立により、地元スーパーで食材を購入し、手作りで提供している。事業所の菜園で楽しんで収穫したトマトやピーマン、大根、きゅうり、ジャガイモ等も使用している。筍ご飯やおはぎ等季節の食材を利用した献立や誕生会のリクエスト食、ノンアルコールビール、ケーキ等は、利用者の楽しみとなっている。利用者は、皮むきや野菜を切ったり、テーブルを拭くなど、できる事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量は大まかに把握している。(10時、15時、入浴時、各食事)ホールにはポットを設置していつでも飲める環境を整えている。摂取量が少ない方には嗜好品を出すなどの対応を行っている。食事量もiPadに記入して把握している。食事についても個別に対応しており、食事形態も本人の能力に応じて変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアが出来る方は見守りや声掛けをし、上手く磨けない利用者は磨く能力にあわせて最後に仕上げ磨きをしている。自分で磨くことに出来ない方に関しては毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎防止等に努めている。定期的な歯科往診の際に医師より助言をもらうこともある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの状態、状況に合わせて誘導等の対応をし、トイレでの排泄ができるように支援している。トイレに座った時に一人になる時間を作り排泄を促す環境作りをするなど工夫している。排泄介助の際は職員同士の声掛け、職員間のサイン等利用者の羞恥心に配慮しながら介助を行っている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、利用者の表情や仕草に合わせて声かけを行ってトイレ誘導し、トイレでの排泄に努めている。現在、布パンツを利用し自立している利用者は2名いる。ほとんどの利用者がリハビリパンツとパットを使用しており、誘導、見守り、ふき取り、ズボンの上げ下げ等の支援をしている。ポータブルトイレを3名の利用者が使用しているが、オムツを使用している利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	玄米ご飯や雑穀ご飯を食事に取り入れている他、食物繊維の多い野菜の献立にする工夫も行っている。便秘気味の方は、往診時に相談し適切な下剤の量を調整するとともに、早い段階での下剤服用を心掛けている。また、体操や運動を取り入れ自然排便を促すように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	自己決定できる方は入りたい時間や同性職員の介助で入ってもらっている。職員が一方向的に決めず利用者のその日の希望を確認したり、入浴を好まない利用者には声かけなどの工夫をして入浴していただいている。菖蒲湯やゆず湯等、季節を楽しんでいただく工夫も行っている。	毎日午後の1時～5時の間に3人の入浴を基本としている。季節のゆず湯や菖蒲湯の他バスクリンを使用し利用者が楽しんで入浴できるよう工夫している。家族の希望により、専用のシャンプーを使っている利用者もいる。入浴を嫌がる利用者には、日程を変更して対応している。入浴時には、職員と昔の楽しそうに話しながらつるいでいる。入浴時に皮膚の状態を確認し必要に応じてボディクリームを塗布している。	

事業所名 : グループホーム ほほえみの家 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	家事への参加や敷地内の散歩が日常的にあることで、日中の活動量を増やし夜間の安眠につなげている。家事はその日の体調や利用者の希望に合わせて参加をお願いしている。また、できるだけ利用者の生活リズムに沿って休息がとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の作用など薬剤表をファイルし、すぐに確認できるようにしている。また、薬を利用者に出す際にも3重にチェックをし誤薬がないように注意している。薬の変更があった場合には、本人の状態を観察、記録し変化がみられた場合には医療機関や薬剤師と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家族から情報を得た生活史をもとに、好みに合わせた楽しみごとを取り入れている。俳句の投稿にて新聞に掲載されるなどの成果もあり、日常に張り合いが持っている。家事など一人ひとり役割を持ってもらい、手伝ってもらった時には必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染症対策のため買い物や個別対応などの外出支援は自粛中ではあるが、状況を見ながら一対一で出掛けることもある。天気の良い日はグループホーム裏のバラ園を散策したり、畑で野菜を収穫するなど日常的に外に出る機会を設けている。その他にも感染対策をした上でドライブに出掛けたり、戸外でできる行事を開催して楽しい時間を過ごしてもらっている。他科受診については家族に協力していただき出掛けている。	天気の良い日には、玄関前での日光浴やバラ園などの事業所周辺を散歩したり、プランターの花への水遣り、菜園の野菜の収穫を楽しんでいる。市内のドライブを楽しんだり、お花見や紅葉狩り等に小岩井農場や網張、岩山等に出かけ車窓から風景をながめ楽しんでいる。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみの家 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在は常時お金を所持している利用者はおらず、支払いをする機会も少ない。近くのスーパーが認知症にやさしい店づくりを進めており、今後個別ケアなどを利用して利用者本人がお金を所持、使用する機会を作っていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎年、年賀状を出しており、できるだけ本人に書いて頂くようにしている。また、新型コロナで面会が限られているため家族へ定期的に電話をする取り組みを行っている。利用者の中には家族や親戚に手紙を書いて日常的にやり取りをしている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の状況に応じてソファやテーブルのレイアウトを変更することで心地よく過ごせるように配慮している。また、昼食後はテレビや電気を消して音楽をかけるなど生活に変化をつけたり、定期的に季節を感じられるような写真や飾りを掲している。	ホールには、利用者が作った季節に合わせた作品やイベント時の写真等が飾られ、季節により雛人形、水木団子、七夕飾りなどを展示している。テーブルや椅子、ソファが設置され、エアコンや加湿器で温度管理された快適な空間となっている。利用者は、テーブルやソファでテレビを視聴する等くつろいで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールに複数人が座れるソファ、玄関先にベンチを設置している。利用者が個人や数人でくつろげる空間になっており、玄関先のベンチや椅子を移動し利用者が日光浴をしながらおやつやお茶を楽しむ環境づくりをしている。気の合った利用者同士が気軽に部屋を訪問できるような雰囲気作りが出来ている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみの家 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている。	入居時だけに限らず、思い出の物や使い慣れた 物を持参して頂くよう働きかけている。居室内は テレビや椅子などそれまで使用していた物が置 かれ、家族の写真や鉢や花が飾られている。グ ループホームで準備したコルクボードには、本人 や家族の写真、飾りなどが貼られている。	エアコンやクローゼット、ベッド、筆筒、洗面台が 設置されている。テレビや小筆筒、家族写真、位 牌等が持ち込まれ、趣味のクロスステッチや家族 の写真等が飾られている。居室は、利用者や家 族の意向により配置された居心地の良い空間と なっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫してい る。	福祉用具を活用し利用者の行動を抑制せず職 員の見守りに対応できるようにしている。自室が わからない方にはドアに大きく名札を設置してい る。状態が変わった場合、その都度職員で話し 合い、本人の不安など取り除き自立支援に取り 組んでいる。		